木曽川中流域観光
フラッグシップ事業計画

＜令和４～６年度＞

令和４年５月

木曽川中流域観光振興協議会

Ⅰ　はじめに

○木曽川中流域（岐阜県美濃加茂市・可児市・各務原市・坂祝町、愛知県犬山市エリア）の自然や歴史、文化、生活を観光資源として活用し、「にぎわい創出」による国内外からの観光誘客及び観光消費額の拡大を図るべく、官民連携により「木曽川中流域観光振興協議会」を組織し、令和４年３月に「木曽川中流域観光振興ビジョン」を策定した。

○同ビジョンに則り、同協議会構成団体が連携して取り組む「フラッグシップ事業」について、本書のとおり計画する。

【木曽川中流域観光振興ビジョン（抜粋）】

＜統一コンセプト＞

日本ライン・KISOGAWA リトリート・パークづくり

～　世界に誇る景観と、歴史、文化をつないだ
新たなリバーポートエリアの形成　～

＜重点取組み項目＞

Ⅰ　リバービューの新たな癒し空間づくり

Ⅱ　流域の歴史・文化を活かした新たな魅力づくり

Ⅲ　世界に認められる新たなブランドづくり

日本ライン御案内　日本八景木曽川／吉田初三郎 画

Ⅱ　フラッグシップ事業

○「日本ライン・KISOGAWA リトリート・パークづくり」を進めるべく、令和４～６年度にかけて以下の事業を実施し、令和７年度には、「全国都市緑化フェア」「大阪・関西万博」等の機会を捉え、国内外からの誘客拡大につなげる。

１．　新たな木曽川遊覧の確立に向けて

（１）　令和版「太田の渡し」「木曽川の川下り」の実施

（２）　令和版「内田の渡し」、イベント遊覧の実施

２．　観光ネットワークの形成に向けて

（１）　「木曽川おさんぽマルシェ」の開設

（２）　集客施設間の連携強化

３．　新たなブランドの創出に向けて

（１）　「(仮称) River　to　Summit」の実施

４．　着実な誘客拡大に向けて

（１）　サステイナブルな観光コンテンツの造成

（２）　観光動態調査、地域住民・観光事業者向け実態調査の実施

（３）　誘客プロモーションの実施

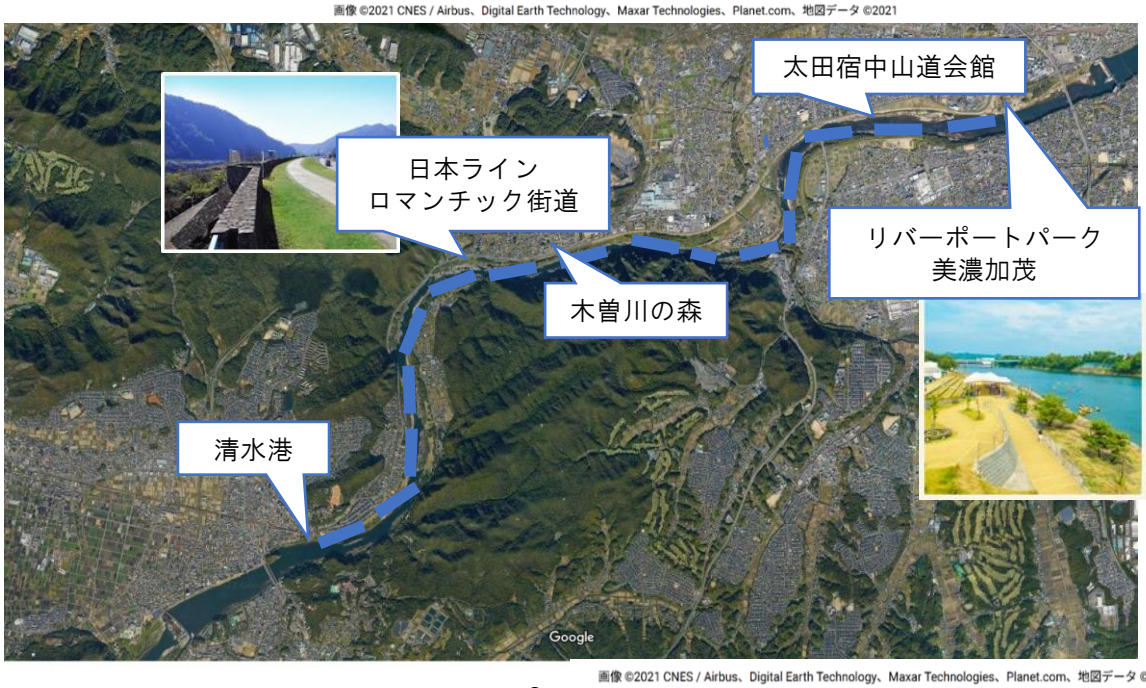
１．新たな木曽川遊覧の確立に向けて

（１）令和版「太田の渡し」「木曽川の川下り」の実施

【美濃加茂市、可児市、各務原市、坂祝町、岐阜県】

・安全性を第一に、「リバーポートパーク美濃加茂」の指定管理者と連携し、令和版の「太田の渡し」及び「木曽川の川下り」（ジェットボートの活用を含む）の実証実験を実施するとともに、定番商品化に向けた検討を行う。

画像 ©2021 CNES / Airbus、Digital Earth Technology、Maxar Technologies、Planet.com、地図データ ©2021

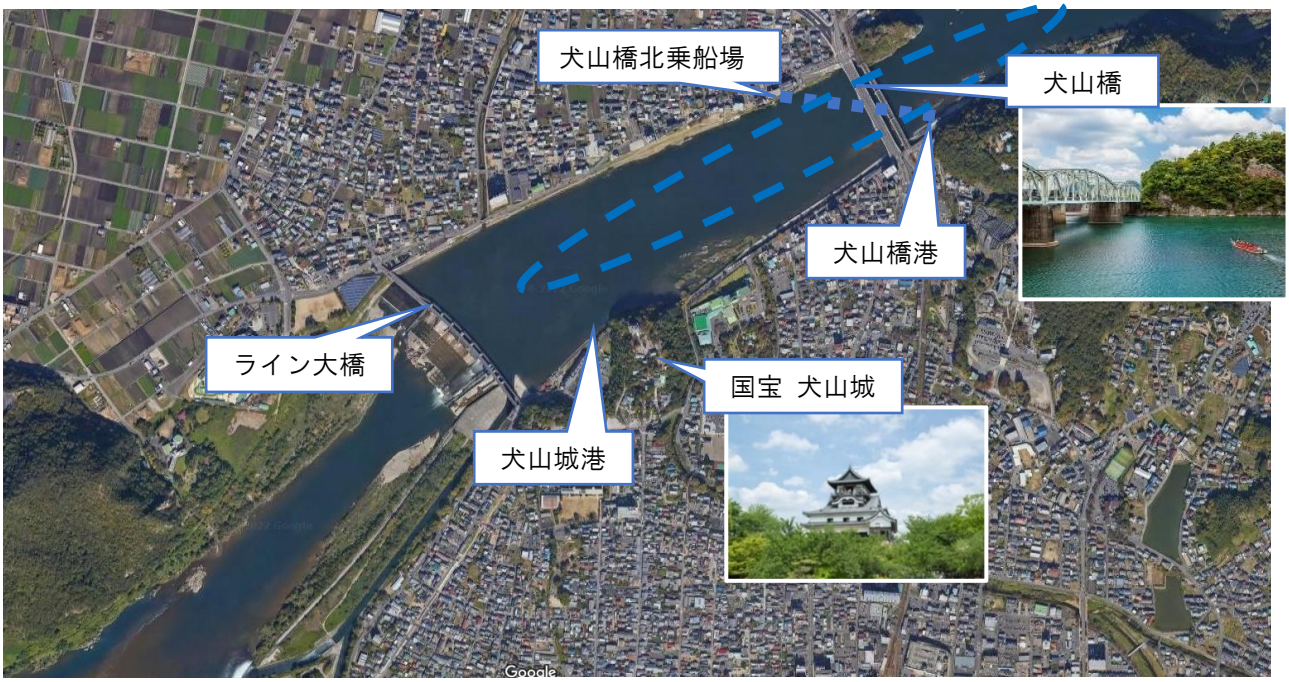


画像 ©2021 CNES / Airbus、Digital Earth Technology、Maxar Technologies、Planet.com、地図データ ©2021

（２）令和版「内田の渡し」、イベント遊覧の実施

【犬山市、各務原市、岐阜県】

・安全性を第一に、木曽川観光株式会社と連携し、令和版の「内田の渡し」及びイベント遊覧の実証実験を実施するとともに、定番商品化に向けた検討を行う。



２．観光ネットワークの形成に向けて

（１）「木曽川おさんぽマルシェ」の開設

【５市町の各観光協会】

・令和版「太田の渡し」「内田の渡し」「木曽川の川下り」の実証実験の際に、その発着地点において、域内の事業者が相互に出店する「木曽川おさんぽマルシェ」を開設する。

・あわせて、５市町の主要行事においても「木曽川おさんぽマルシェ」を積極的に開設し、販売機会の創出及び魅力発信を図る。

※観光客が訪れる主要行事の例

＜美濃加茂市＞

・おん祭 MINOKAMO 秋の陣　【１０月：中山道太田宿一帯】
・みのかもハーフマラソン大会　【１月：ぎふ清流里山公園】

＜可児市＞

・カタクリまつり　【３月：可児川下流域自然公園】
・もみじ祭り　【１１月：可児川下流域自然公園】

＜各務原市＞

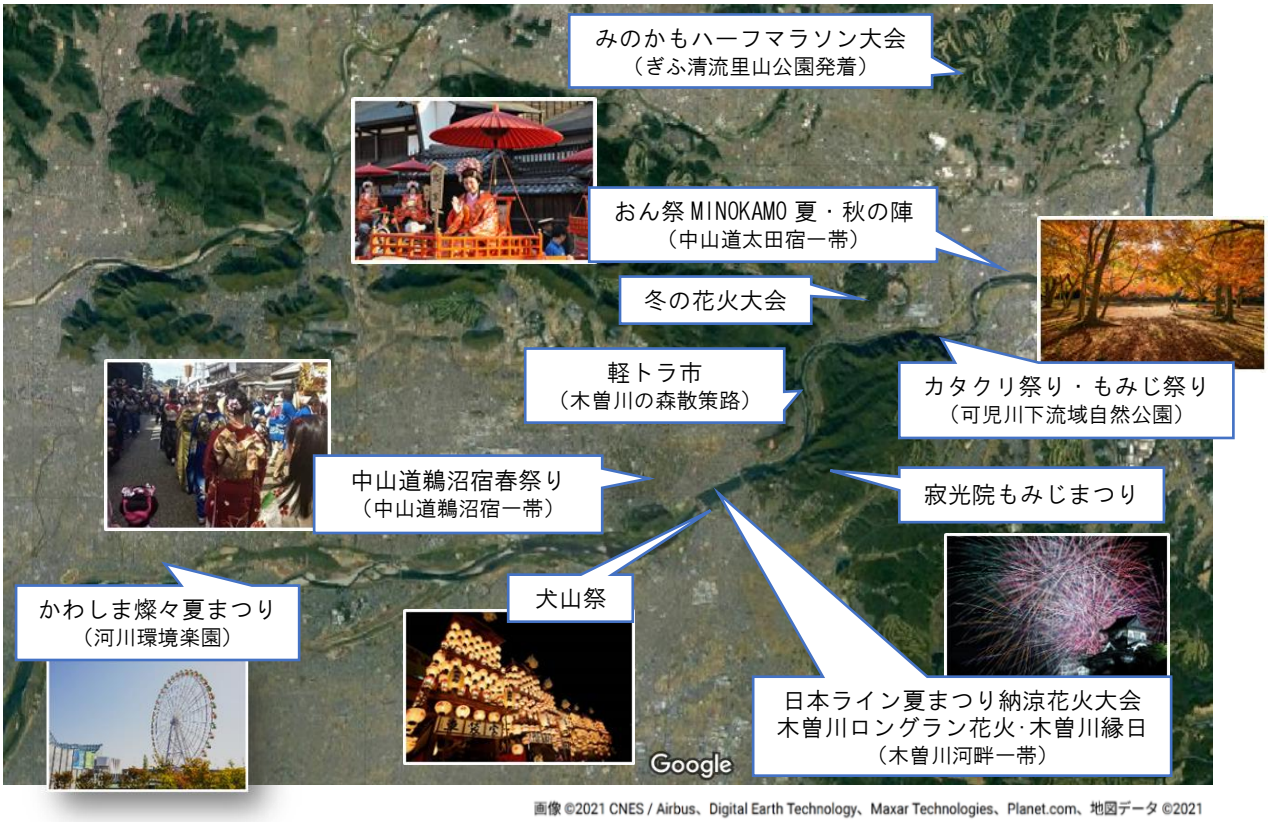
・中山道鵜沼宿春祭り　【３月：中山道鵜沼宿】
・かわしま燦々夏まつり　【７月：河川環境楽園】

＜犬山市＞

・犬山祭　【４月：犬山城下町】
・日本ライン夏祭りロングラン花火【８月：木曽川河畔一帯】
・寂光院もみじまつり　【１１月：継鹿尾山】

＜坂祝町＞

・軽トラ市　【随時：木曽川の森森散策路】
・冬花火　【１２月：坂祝中学校】



（２）集客施設間の連携強化

【５市町の各観光協会】

・岐阜県営都市公園を始めとするエリア内の集客施設とその周辺事業者等が連携し、特典付与等による相互誘客を進める。

３．新たなブランドの創出に向けて

（１）「(仮称) River　to　Summit」の実施

【５市町、５市町の各観光協会、岐阜県】

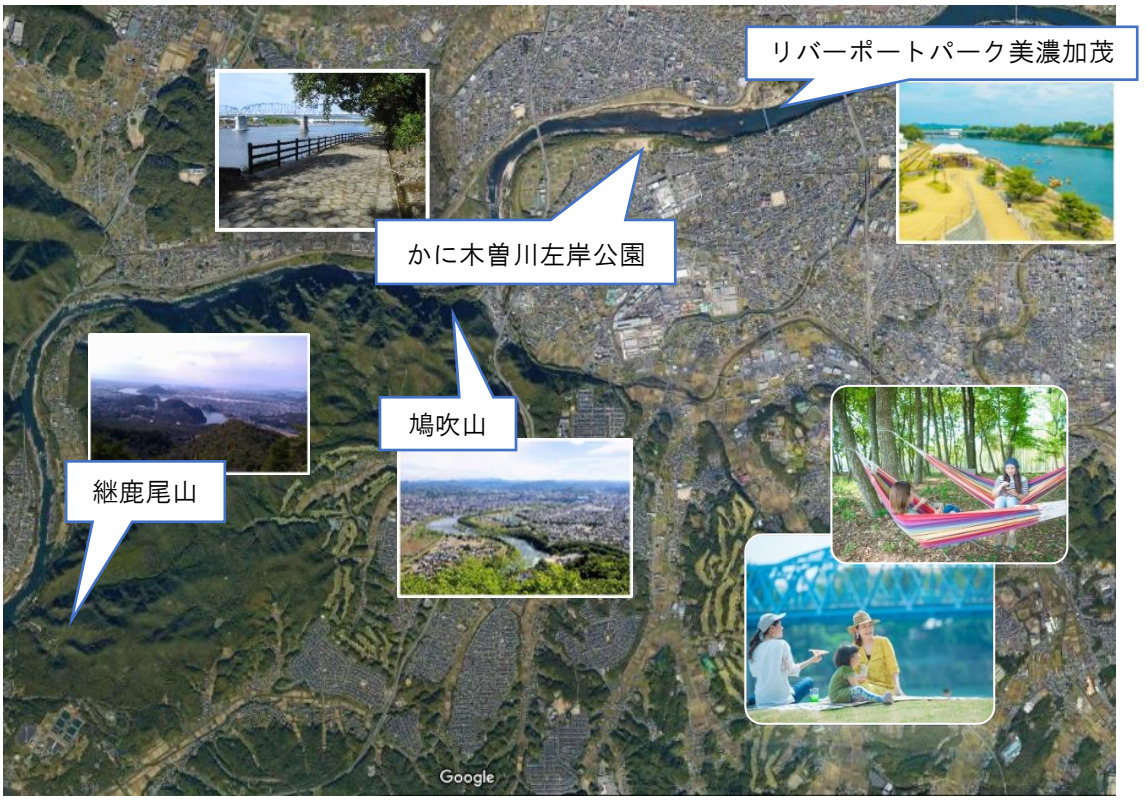
・木曽川と周辺の里山を楽しむ新たなイベント「(仮称) River　to　Summit」の確立に向け、イベント内容の検討を進め、アクティビティの専門家等の助言のもと、安全性を第一に実証実験を行う。

＜「(仮称) River　to　Summit」イベントイメージ＞

■川遊び（渡し舟、川下り、遊覧船など）とトレッキング、ハイキング、ウォーキングを組み合わせたアクティブイベント。

■回遊性を高めるため、木曽川右岸・左岸で同時にマルシェや体験ブースを開設するなど、幅広い層が参加できる催しを開催。

■木曽川河畔に留まらず、５市町内の公園や観光施設なども含め、中流域全体で面的に開催。



画像 ©2021 CNES / Airbus、Digital Earth Technology、Maxar Technologies、Planet.com、地図データ ©2021

画像 ©2021 CNES / Airbus、Digital Earth Technology、Maxar Technologies、Planet.com、地図データ ©2021

４．着実な誘客拡大に向けて

（１）サステイナブルな観光コンテンツの造成

【５市町、岐阜県】

・地域の歴史や文化、自然を活用した、木曽川中流域ならではの観光コンテンツ（着地型プログラム）や、エコ・モビリティの活用など、環境や健康にも配慮した､新たな観光コンテンツを造成するとともに、旅行会社と連携し、旅行商品としての定番化を目指す。

（２）観光動態調査、地域住民・観光事業者向け実態調査の実施

【５市町、５市町の各観光協会、岐阜県】

・５市町の主要観光地点の入込客数を把握・共有するともに、観光客向けアンケートを実施し、発地や移動手段、経路などを調査する。

・観光の地域に与える影響を把握するべく、地域住民及び観光事業者向けに観光に対する満足度・意識調査を実施する。

（３）誘客プロモーションの実施

【５市町、５市町の各観光協会、岐阜県】

・「日本ライン・KISOGAWA リトリート・パーク」として、５市町の旬の観光情報を国内外に一元的に発信する基盤づくりを進める。

・リバーアクティビティ（川遊び）や桃太郎伝説、山城など、５市町をつなぐストーリーを整理し、着実にターゲット層に発信する。